

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育さとやま			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日 ~ 2025年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025年 12月 2日 ~ 2025年 12月 9日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の人員配置を充実させている。 現場職員➡子ども1人に1人の体制で対応できるように努めている。 職員会議など職員間で話し合う機会をしっかりと作ることで職員間のコミュニケーションを図りやすくし、同じ方向性を持って療育ができるようにしている。	日々のミーティングにより、職員会議の中で子ども達への関わり方などより良い療育ができるよう職員間で話し合い、共通理解の元で子ども達への関わりを行っている。	今後はより事業所内外での研修を積極的に行い、職員全員が専門的な知識と技術を高め、スキルアップしていくよう体制づくりを行う。
2	必要に応じて定期的な面談以外にも臨時に面談をしたり、活動のご見学を受け付け、ご家族の不安や困りごとに寄り添つていけるような体制づくりを行っている。	管理者・児童発達支援管理責任者と現場職員でご家族との話は共有するようにし、現場職員の気づきからも管理者・児童発達支援管理責任者が保護者対応に向かえる体制づくりをしている。	今後も現場職員と管理者・児童発達支援管理責任者がコミュニケーションをしっかりと図り、全職員で支援が行えるようにしていきたい。
3	日々の活動内容をアプリやスマートフォンを使用して、保護者と情報共有を行っている。	言葉だけではなく、動画や実際に見てもらうことでイメージを明確化させる。	保護者も参加できるような、親子イベント等を開催したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所、こども園や保育所、幼稚園との交流ができていない。 並行利用をしている子どもの連携が他事業所、こども園、幼稚園、保育所との間で図りにくい現状がある。	こちらから他事業所、園へアクションする機会が少なく、連携につながるケースは少ない。	情報共有は必要な際は、能動的に他事業所や園への連携を図る。
2	ご家族に対してペアレントトレーニングや家族へ向けての研修会ができていない。 保護者会など家族が交流できる場を作ることができない。	事業所内でペアレントトレーニングを実施しようとする職員の技術と人員増員が必要となる。	安全に保護者間交流ができる体制づくりを考えていきたい
3	地域との交流など地域に開けた事業所運営ができていない。 第三者委員会など外部の機関を運営に取り入れることができない。 避難訓練や身体研修の開催の報告が保護者に周知できていない。	外部機関とつながれるようにする体制づくりの時間の確保が難しい。 報告書を保護者に提示する際に、個人情報に取扱いに注意が必要になる。	市町村や公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをしていきたい。 事前に開示の旨を保護者に承諾を得ていきたい。